

## 2026年度 学校法人東京神学大学 事業計画

### 1. 2026年度事業計画方針

2026年度は7年に1回の認証評価受審年度であり、第2次中期財政計画（2022～2026年度）の最終年度、第3次中期財政計画（2027年度～2031年度）の策定年度になり、大変重要な年度となる。

本学の最大の課題は、献身者の増員であり、更なる取り組みが必要である。

全国の教会においては、信徒の高齢化、若人の減少により、本学の収入の約6割を占める後援会献金については影響が大きく、厳しい状況が続いている。

2026年度予算編成に当たっての前提は、中期財政計画を参考にしている。収入は、学生数の増員、経常費補助金の増額を目指し、支出は、教員の質の向上を維持しつつ費用対効果を前提に編成する。

総学生数は、中期財政計画を見直し、2025年度同様に**80名**で作成している。2026年度は、基幹教員制度導入と学部定員の収容定員変更（編入学数20名を12名）を行う。大学院博士課程前期課程 聖書神学専攻は2024年度に収容定員変更（15名を10名に変更）を行っている。**収容定員は114名**（学部52名、博士課程前期課程50名、博士課程後期課程12名）である。

2026年度の主な事業計画は以下の通りである。（第3次中期計画より）

#### (1) 献身者の増員（学生の受け入れ）

① 在学生総数90名台回復を目指すための、学生の受け入れのための具体的な方策

- i) アドミッションポリシーの検証と実質化を図る。
- ii) キリスト教学校との連携を強化する。
- iii) ホームページやSNSの活用による入試広報の充実を一層図る。
- iv) 広報委員会との連携の下、本学について広く周知する方策を検討する。
- v) 留学生の受け入れ方策および受け入れ態勢の充実を図る。
- vi) 教職課程についての広報を強化する。
- vii) 高校からの入学者の増加を目指し、方策を検討する。
- viii) 日本基督教団以外の福音主義的信仰に立つ教団・教派への広報活動を強化する。
- ix) 既に教役者として働いている者たちへの広報活動を強化する。
- x) 神学研修志望者の周知に努める。

② 各教会との連携を密にし、学生募集につながる「日本伝道を担う青年の集い」「オープン・キャンパス」「入試説明会」等への参画を促す。地方にはオンライン参加も含め呼び掛けを積極的に実施する。

③ 東京神学大学同窓会、地区後援会及びキリスト教学校伝道協議会の支援を仰ぎ、既に実施されている後援会地区公開講演会、理事・監事・評議員等からの呼び掛け、神学校日への学生の派遣等更なる活性化を図る。

④ 2023年度から教文館において東神大フェアを開催し、好評を得ている。  
2026年度も継続して開催する。

## (2) 後援会活動の維持・活性化

- ① 全国大会、地区後援会主催の公開講演会等を開催する。
- ② 東京神学大学ホームページを2024年度にリニューアルして、東神大ニュース「学長室から」で学長から随時本学の情報を発信しており、これを継続、充実させる。また、地区ごとの活動状況の情報共有を図る。
- ③ 各個教会に東京神学大学後援会窓口となる教会担当者を明確にしてもらうよう要請する。

## (3) 内部質保証向上委員会課題

- ① 内部質保証体制を実質化し、毎年度P D C Aサイクルを通じて諸課題の改善を着実に進める。
- ② 内部質保証システムの有効性を毎年度検証し、検証結果を踏まえて、より適切なシステムへと改善する。
- ③ 自己点検・評価に外部評価他さまざまなステークホルダーの視点を取り入れるよう努める。
- ④ 教育の質の客観的指標を基に、教育活動の充実に努め、積極的に情報公開する。  
2025年度は、GPAの卒業判定への活用、初年次教育の実施、学修行動アンケートの実施等を行い、アンケート結果（授業アンケート・学修行動アンケート・卒業時アンケート）の公表を推進した。

## (4) 学外事業の推進

- ① 2025年度から公開夜間神学講座のオンライン配信をトライアルで行っている。  
2026年度は、さらに充実させる方策を検討する。

## (5) 東京神学大学ホームページ（情報公開）

- ① ホームページの更なる機能強化
- ② 広報活動の推進と情報の発信
- ③ 教育情報の公表として、2024年度から大学院進学率、就職（赴任）率、留学率等のデータをグラフ等で公表している。また、大学運営に係る各方針（8方針）を公表し、内部質保証の方針を一部改正、内部質保証システム体系図を公表した。2026年度も引き続き情報公開に努める。

## (6) 教育研究等環境整備

- ① 2025年度は、礼拝堂の空調設備設置を行い、文部科学省私立学校等施設整備費補助金を獲得した。
- ② 2025年度に本館排水管の更新工事・トイレ改修工事の検討を慎重に行い、3月の定期評議員会、定期理事会で承認の上、2026年度予算に計上し、施工する。

- ③ 2025年度は、本館の通信環境整備として、アクセスポイントの設置を行った。  
更なる教育研究等環境整備（研究室・教室等の授業環境の整備）を行う。
- ④ IT環境の充実・強化
- ⑤ 図書館リポジリーの充実に努める
- ⑥ 研究倫理規程・コンプライアンス基本方針等の内容の確認・検討をFD活動の一環として、毎年度実施する。
- ⑦ 引き続き大学院FDを毎年度実施する。

#### (7) ガバナンスとコンプライアンスの強化

- ① 改正私立学校法に伴う体制整備のため、法人内の諸規程の制定、一部改正を行い、寄附行為変更認可申請は2024年10月10日付で認可された。
- ② 2026年度に理事・監事・評議員が任期（3年）満了となるため、理事等選任委員会で選任する。
- ③ 監事・評議員の評議員会での選任
- ④ 会計監査人の評議員会での選任（毎年度行う）
- ⑤ 法人の諸規程を整備すると共に、PDCAサイクルにより常に見直していく。
- ⑥ 2025年度に引き続き、改正私立学校法に則った、2026年度定期理事会等開催日程の実施
- ⑦ 改正私立学校法により、2025年度決算から会計監査人の会計監査報告書及び監事監査報告書の提出期限が大きく変更されたため、定期理事会、定期評議員会で報告をする。
- ⑧ 第2次中期財政計画（2022年度～2026年度）の振り返り及び  
第3次中期財政計画（2027年度～2031年度）の策定を行う。

## 2. 収入計画

- ① 学生生徒等納付金収入：学生数は、**学部生 39名**（収容定員充足率 76.6%）、大学院生 41名（博士課程前期課程 28名、博士課程後期課程 13名）、**学生総数 80名**としている。入学者数は、学部編入学者 18名、大学院 0名 = 外部入学者合計 18名、大学院の内部進学者 16名として予算化した結果、55,780千円とした。
- ② 寄付金収入：**一般寄付金**（教会賛助金、後援会個人献金等）予算は、原則、後援会献金の目標額 156,500千円とした。  
**特別寄付金**（奨学金指定、建物施設指定、基金等）は、37,300千円とした。  
建物整備献金は、2024年度、2025年度は大口献金により予算額を達成したが、過年度等の大口献金を除く、実績額を基に 4,000千円とした。  
その結果、一般寄付金と特別寄附金の方経額は 193,800千円とした。
- ③ 補助金収入：補助金対象の専任教員 14名、専任職員 11名、40,000千円とする。  
教育の質の客観的指標の配点は、内部質保証向上委員会で検討し、過去 2年間は配点が増加している。2025年度は前述の 2つの課題を達成した。2026年度も未達成の項目で配点が加点できるように検討する。
- ④ 資産運用収入：資産運用は、資金管理運用委員会の資金管理運用実行計画に基づき、余剰資金は投資適格債券等で規則に従って運用する。 26,460千円

- ⑤ その他の収入は、本館排水管更新工事・トイレ改修工事は、減価償却引当特定資産を取り崩して支払資金に充てる。39,710 千円

### 3. 支出計画

- ① 人件費支出：基幹教員（含む特任准教授・特任常勤講師・助教）14名、専任事務職員12名、図書館パート職員1名、定年退職者職員1名により242,637千円とする。
- ② 教育研究用経費・管理経費  
本館排水管更新工事・トイレ改修工事費（修繕費、解体撤去費、雑費）15,457千円  
情報関連費は、事務局管理部門パソコンリプレース2,000千円、認証評価手数2,970千円、奨学金、全国地区後援会旅費、学報、学校案内作成費、教職課程のしおり、教務システム保守費及び消耗品費他
- ③ 図書関係  
教育消耗品費：和雑誌250千円、洋雑誌8,000千円  
洋データベース1,250千円、システム運用サポート費1,080千円  
図書館システム：リース料（2年目）4,600千円、学生アルバイト料2,000千円
- ④ 奨学金：2025年度予算同様18,000千円（学生数80名）  
各教会に奨学金献金の増額を依頼するため神学生の生活状況を具現化する。
- ⑤ 本館排水管更新工事・トイレ改修工事は、夏期休暇中に行う。

施設関係支出	予算計上額
建物	24,630 千円
建物附属設備	24,260 千円
電気設備、排水管設備他	370 千円
教員住宅壁タラップ取付	370 千円
設備関係支出	11,800 千円
教育研究用機器備品	計上なし
管理用機器備品	計上なし
図書	11,800 千円
	和書1,200千円、洋書（電子書籍含む）10,600千円

#### ※ 本館排水管更新・トイレ改修工事について

設計料 2,750,000 円を各科目に按分

建物（附属設備）	24,253,300 円
（教）修繕費	11,291,766 円
（管）修繕費	2,822,942 円
（教）解体撤去費	758,049 円
（管）解体撤去費	189,512 円
（教）雑費	315,545 円
（管）雑費	78,886 円
<b>工事総額</b>	<b>39,710,000 円</b>